



Mensagem da Mayumi em Canoa カノアの真由美さんより、メッセージ

この原稿を書いている今日、6月12日はブラジルW杯開幕です。昨年末に日本に一時帰国した際、ブラジルに関心を持つ方が増えているという印象を受けました。これもW杯効果というべきでしょうか。

さて、私が小学校などで話をさせていただくとき、必ずする質問があります。「ブラジルというところが思い浮かびますか？」たまにすごい答えがあったりして驚くこともあるのですが、大体は「アマゾン」「サッカー」「カーニバル」のいずれかを答えてくれます。それだけ「サッカー＝ブラジル」というイメージは強いんですね。残念ながら今回のW杯開幕に向けて、国内は大規模のストライキやデモが相次ぎ、それに便され、怪我や亡くなる人も出るなど、社会問題となっています。その大きな要因は、W杯開幕のために投資された建築や道路整備費用の悪用でした。この費用を捻出するために、とある州では教育や保健分野の資金からその費用を捻出し、それを知った国民が爆発したのです。

近年これだけ注目を集めるようになった、ブラジル。全ての国民が基本的な生活を営めるようになるにはまだまだ時間がかかりそうです。

コンテンツ

- P.2 カノアのお祭り
実施プロジェクトの紹介
- P.3 フラビア二の研修報告
子育て日記
カノア地図
- P.4 光の子どもたちの会が新聞に
掲載されました！
- P.5 報告
ラビリント タグ
JICA 横浜展示
- P.6 国内イベント実施報告
- P.7 総会/収支決算・予算
- P.8 会費、寄付のお礼



私たちは、ブラジル（東北部の小さな漁村）で教育を通した活動を行っている団体です。子どもたちに対して、自らの将来を選択していくための「生きる力」を持てるように支援しています。子どもたちの輝きを支え、人々に笑顔を届ける活動をしていきます。たったの100円でお米1kgを買うことができます。また、子ども一人当たりの保育料に毎月3,000円がかかります。当活動はすべて無償で行われています。ご寄付や会費（一般会員：年会費5,000円）での応援をお願いします。

クレジットカードで
寄付をする

会費・寄付金がインターネットで お振込みいただけるようになりました！

これまでの会費のお支払方法に加え、「光の子どもたちの会」ホームページより、クレジットカードを利用してのお振込みができます。ぜひご利用ください。
尚、会費は年間 5,000 円です。

Festa de São João サン・ジョアン祭り

私たちの保育園・学童教室は「W杯法案」を受け、通常より半月早い、6月12日から長期休暇に入りました。「W杯法案」とは、2012年6月5日に発令されたブラジル国内の法律であり、2013年のコンフェデレーションカップ及び2014年ワールドカップを実施するために設けられました。FIFAのブラジルの国内での権利やW杯に関わる商用すべて、国内のスタジアムや交通整備の実施、試合開催期間における休日についてもこの法律で定められています。



保育園、学童教室の子ども達は地域の人には“早すぎる！”という声が聞かれる中、「Festa de Sao João (サン・ジョアン祭り)」を楽しみ、ゲームに踊り、歌と楽しみました。Festa de Junina(6月の祭り)は12世紀フランスで夏至と豊穣を祝うために始められたといわれています。18世紀に入り、カトリック教の中で3つの聖人のお祝いとして根付きました。その中でも「Sao João」は豊穣の神とされていたことから、このお祭りのシンボルとされたそうです。特にブラジル北東部では、農業に携わる人も多いことから、この地域では伝統的な祭りの一つとされています。



Andrey(アンドレイ)8歳
「サン・ジョアン祭りの様子」



Santiago(サンチアゴ)8歳
「W杯ブラジル優勝祈願！！」

現在実施中のプロジェクト

O projeto com JICA JICA 草の根技術協力事業プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業より、『ブラジル東北部子育て支援体制強化による地域力向上プロジェクト』として2013年3月1日より実施しています。

教育や保健の関心が高まっている現在のブラジルにおいて「子育て支援」、特に6歳以下の子ども達に対する支援協力は強固なものとなっています。今後具体的な活動が実施されていく中、積極的に関わってくれている市の専門家や住民を中心とし、活動に取り組んでいきたいと考えています。これからも皆様の応援・ご協力の程、どうぞよろしくお願い致します。

O projeto com AJINOMOTO 味の素支援によるプロジェクト

味の素「食と健康」国際協力支援プログラムより、『地域特有の食材及び料理の再評価による、地域住民の栄養改善プログラム』として、2012年4月1日より実施していた事業は、2014年3月末を持ちまして、無事終了いたしました。地域特有の食材に関する冊子が未だ届いておらず、先日ブラジル味の素社から視察に訪れた方と共にフォルタレーザ大学を訪問した際に、7月中には出来上がる予定と伺いました。期待して待つてみたいと思います。

Novo encontro em Santa Catarina
 サンタ・カタリーナでの新しい出会い

「光の子どもたちの会」が運営する保育園で働くフラビアーニ・ドス・サントス・ホーシャさんが、ブラジル南部にある学校へ研修を行ってきた際のレポートです。 訳: 鈴木真由美



フラビアーニ (右) と娘のイザベル

「2014年3月6日から29日まで、サンタ・カタリーナ州にあるシュタイナー学校「Anaba(アナバ)」での研修に参加してきました。1～3年生のクラスを1週間ずつ移っての実習でしたが、学校の雰囲気、先生の方々の接し方、クラスの様子、どれも新鮮で驚くことばかりでした。また、保護者がこの学校をきちんと選び、子ども達を通わせているため、保護者の参加率が高く、毎日学校のどこかで、保護者がボランティアとして働いている姿を見かけることができました。保護者も子育ての不安を強く抱えているため、毎週必ず勉強会があり、セミナーなども積極的に開催されています。皆で学び、子どもたちを育てていく、そんな姿を見ることができました。ただ、私立の学校のため、月謝が高く、上流階級の人たちしか通うことができません。これだけの設備と質が保たれているのだから納得できることではあるのですが、ここで学んだことを私達の地域で、活動で、どのように活かせるのか、そのことを考えて毎日を過ごしていました。

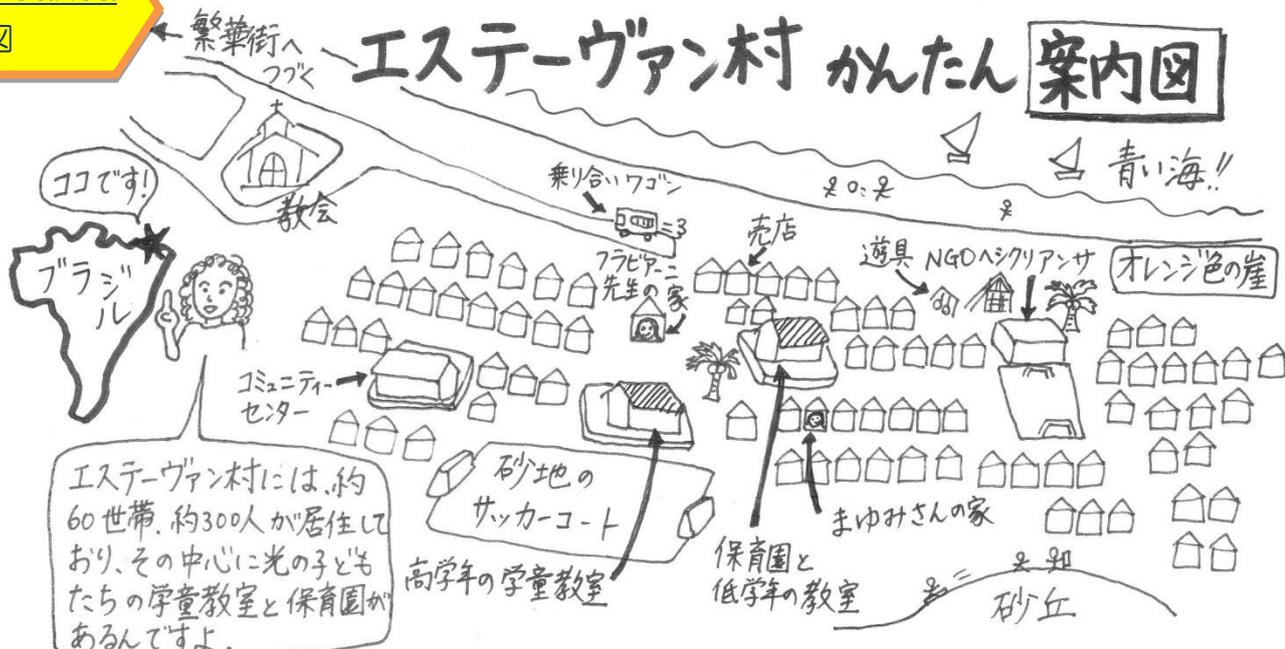
一つ、とても良い取り組みがありました。それは、ここにはコーディネーターという立場の職員はおらず、例えば、5年生の担任が2年生のクラスの相談役…というようにそれぞれが担当を持ち、日々の活動に携わっていました。これにより、自分のクラスだけに目が向けられがちのところ、視野を広く保ち、学校全体を見渡すことができるようになります。私達もこの方法を取り入れてみたらいいのではないかと考えています。まずは学んできたことをかみ砕き、飲み込んだ上で、実践に移していけたらと思っています。今回このような研修の機会を得られたことに、心より感謝いたします。」

一つ、とても良い取り組みがありました。それは、ここにはコーディネーターという立場の職員はおらず、例えば、5年生の担任が2年生のクラスの相談役…というようにそれぞれが担当を持ち、日々の活動に携わっていました。これにより、自分のクラスだけに目が向けられがちのところ、視野を広く保ち、学校全体を見渡すことができるようになります。私達もこの方法を取り入れてみたらいいのではないかと考えています。まずは学んできたことをかみ砕き、飲み込んだ上で、実践に移していけたらと思っています。今回このような研修の機会を得られたことに、心より感謝いたします。」

Diário de criação das filhas
 子育て日記より

小学1年生となった次女。日本に一時帰国中に入学式があり、約1ヶ月という短い間ですが、小学校生活を楽しみました。そしてブラジルに戻り早1ヶ月。今年はW杯開催に伴い、学期末試験も半月早く行われました。そのため、ブラジルに戻り、数週間後には学期試験…という何とも慌ただしい学校生活です。日本では学期末試験などないため、初めての経験で緊張したのか、3日目の夜、突然の発熱。翌日は学校を休むこととなりました。風邪というよりも、極度の緊張から熱を出してしまったようです。6歳の小さな体には、学期末試験というのは大きな負担だったのでしょね。それにしても子どもの体は正直です。長期休みに入ったら、思いっきり遊ぼうね！（鈴木真由美）

O mapa de Canoa
 カノアの地図



2014年5月31日(土)

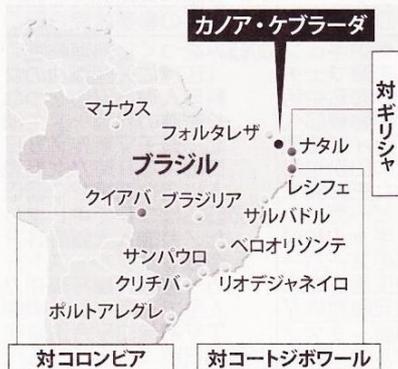


上

「ボンジーア(おはよう)」。子供たちの元気なあいさつで海岸沿いの小さな保育園の一日が始まる。白い砂浜は子供たちの遊び場。サッカー・ワールドカップ(W杯)ブラジル大会で日本の1次リーグ第2戦、ギリシャ戦(日本時間6月20日)の試合会場となるナタルから、北西へ約500キロ離れたカノア・ケブラーダ地区。保育園は日本人女性が14年前、「子供たちに生きる力をつけさせたい」と設立した。NGO「光の子どもたちの会」(横浜市)の鈴木真由美代表(36)。海外の幼児教育に興味を持ち、サンパウロのスラム街の保育園でボランティアをしていた1999年に同地区の漁村を訪ねた。住民約300人。20年前まで漁師と農家が物々交換して生計を立てていたが、周辺でリゾート開発が進み、住民の生活に現金が入り込むようになった。観光地化により治安は悪化、青少年の売春や麻薬売買が深刻化していた。「子供たちが将来の生きる希

夢語る子 増えた

日本の試合会場【1次リーグ】



「子供たちの笑顔にはエネルギーがある」と話す鈴木真由美さん(右)はブラジルのカノア・ケブラーダ地区で、鈴木さん提供

教育で生きる力を

望を持ってなくなる。幼児のうち
に教育の基礎が必要」。現地の
NGOや地域住民と連携して2
000年4月、4〜5歳の12人
の子供を受け入れる保育園を始
めた。03年からは放課後の学童
教室も開始。同会を通じた日本
の団体、企業からの助成や、大
学生ボランティア派遣などの支
援により、今は約40人の子供が
通う。

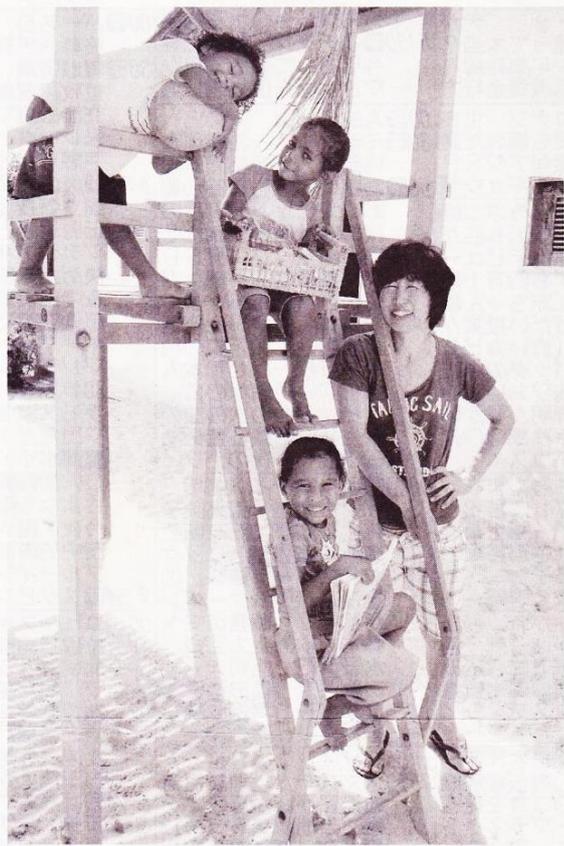
最初の卒園生は12人中10人が
高校に進み、就職時期を迎えた。
ホテルやコンピュータ会社など
に内定。鈴木さんは「将来の
夢を語る子供が増えたことが
うれしい」。

「人と触れ合う仕事があった」と
と30歳で会社員を辞め、小学校
教員に転職。10年から2年間、
国際協力機構(JICA)の現
職教員特別参加制度によりボラ
ンティアとしてサンパウロの私
立学校で日本語を指導した。

初めての海外生活。ポルトガ
ル語もままならない。蓄のう症
が悪化し、せきが止まらなくな
った。その時、校長が手作りの
せき止めシロップをくれた。
その味を思い出すと今でも目
頭が熱くなる。日本で生まれ、
帰国したブラジル人の男子高校
生に会った。ポルトガル語がで
きず、授業についていけない彼
の相談役になった。
「ブラジルでの2年は人生の
宝物。恩返しのためで、ブラ
ジルの子供が日本での生活に困
らないようサポートしたい」

【山本浩資】

1908年6月に日本からの
集団移民が初めてブラジルの土
を踏んで以来、地球の反対側で
は世界最大150万人規模の日
系社会が築かれてきた。一方
で出稼ぎなどで来日するブラジ
ル人は、00年代のピーク時で30
万人に達した。106年になる
「日伯交流は「遠くで近い国」
の証しでもある。6月12日(日
本時間13日)に開幕するW杯を
前に、両国をつなぐ人々の「和
心」を紹介する。



ブラジルW杯:フォルタレザ南東リゾート…自慢の海を守り 毎日新聞 2014年07月04日

【アラカチ(ブラジル北東部)山本浩資】4日(日本時間5日)にセアラ州の州都フォルタレザであるサッカー・ワールドカップ(W杯)準々決勝、ブラジル-コロンビア戦に備え、2日からフォルタレザの南東約180キロにあるアラカチの沿岸リゾート地「カノア・ケブラダ」にいる。W杯観戦客が大勢滞在しているが、私の目的は日本で取材したNGO「光の子どもたちの会」の鈴木真由美代表(36)が住む村を訪ねることだった。



リゾート地の玄関口には地元で「ブロードウェー」と呼ぶ石畳の道路がある。土産物や飲食店が約200メートル並ぶが、海を望む教会を境に、にぎやかな光景はなくなる。その先には赤茶色の砂地の上に平屋建ての民家が点在するエステバン村。政府の環境保護地域に指定され、土地売買が禁止されている。鈴木さんが14年前、「子供たちに生きる力をつけさせたい」と保育園を設立したところだ。

民泊先の鈴木さんの義父、ルシアーノ・フレイリさん(61)は9歳で漁師になり、「60キロの魚を3本釣った時は1人で帰ってくるのが大変」と、漁を語り出すと止まらない。周辺の漁村は観光地になったが、妻マリアさん(58)が中心となり、村を開発から守った。

保育園は「冬休み」中だったが、子供たちが元気に遊んでいた。「のんびりしていて、昔ながらの生活が残っているでしょ」と鈴木さん。夫のマルシアーノさん(33)に連れられ、小学4年と1年の娘さんたちと一緒に村の裏手の砂丘に登った。空と大西洋の青と、白砂がまぶしい。マルシアーノさんが自慢げに語った。「ムイト ポニート(とてもきれいだろ)」。守るべき自然が目の前に広がっていた。

Relatório 報告

3月8日～24日

JICA 横浜にて「草の根技術協力事業活動紹介展」に出展しました。



カノアの様子や子どもたちが保育園でどんな風に過ごしているかなど、たくさんの人に写真とビデオを見てもらう機会となりました。また、カノアのお母さんたちが作る手工芸品「ラビrinto」(写真右の刺繍)も展示しました。作り方、そして収益はどのくらい生産者に届いているのかを知ってもらうために、販売用ラビrintoにタグを付けることになりました。

ご購入、お問い合わせは
日本事務局まで。

電話/FAX: 045-321-1824

E-mail horiike59@msi.biglobe.ne.jp



貝殻アクセサリー・雑貨作り ワークショップ とき:月1で開催 ところ:神奈川県民活動サポートセンター

カノアの浜辺で拾った貝殻を使って、ピアスや写真立てなどを作るワークショップを行いました。Facebook を見てこのイベントを知った方、友人を通じて来られた方など、今までカノアに行ったことがない方々にも参加して頂き、カノアや光の子どもたちの会を知ってもらう良い機会になったと思います。皆でおしゃべりしながら手を動かしていると、色々なアイデアが浮かんで来て、それぞれの個性が表れた素敵な作品が出来上がりました。参加して下さいみなさん、ありがとうございました！

作品の一部は、2013年よこはま国際フェスタのブースで販売させて頂きました。今年も、秋頃に開催される「よこはま国際フェスタ」に向けて、ワークショップを開催する予定なので、是非参加してください。(坂井春菜)

**まゆみさんを囲む会** とき:1月26日 ところ:ブラジルレストラン アパレシーダ(西荻窪)

鈴木真由美さんが日本に帰国して初めての集会を西荻窪にあるアパレシーダで行いました。光の子どもたちの会の活動を知ってもらうと共にスタッフの再認識のためにも今回は『光の子どもたちの会とは?』を今のカノアの様子や行ってきただけの成果を含めて真由美さんにお話ししてもらいました。会場内は全員が座れないほど賑わい、真由美さんのお話やお昼のブラジル料理の定番フェイジョア(豆と豚肉の煮込み)の独特の香りや味にブラジルの様子を思い出している人が多いようでした。初めてこの会に参加してくれた方もいらっしゃり、とても充実した会となりました。(藤本夏実)

**第4回ブラジル料理教室** とき:2月16日 ところ:日吉地区センター

料理教室をはじめ、これまでずっと様々な面で私たちの会をサポートしてきてくださいましたファビアーナさんが、講師を務めるブラジル料理教室は今回が最終回でした。そんな彼女の人柄もあり、今回は国内イベント最多の24名が参加をしてくださいました。メニューは、タピオカ(キャッサバ芋のでんぷんを使ったクレープの様なもの)とチキンパイ。タピオカは、思い思いにお好みの具を包み、いただきました。

老若男女問わず、様々なご経験を積まれた方たちがブラジル料理をとおして交流する、とても有意義な時間を過ごすことができました。ファビアーナさん、本当にありがとうございました。現在、ブラジル料理教室を引き継いで教えてくださる方を新たに募集中です。いらっしゃいましたらスタッフまでぜひご一報ください！(谷村祥子)

**ボディーパーカッション ワークショップ** とき:7月22日 ところ:JICA 横浜第一会議室

道具を使わずに身体を楽器にしてリズムを刻む、ボディーパーカッション。手をたたいたり足をぶつけ合ったりして、ちょっとクールな音遊びをブラジルの子どもたちに教わった大嶋敦志さんを講師にお招きしました。私たちも実際にトライ。ひとりでも、大勢でもできるリズム遊び。みんなでリズムがぴたっと合う瞬間がたまらなく気持ちがいい。

テレビゲームなんかよりずっと創造的で面白い。ブラジルの子どもたちの遊びを通して彼らのことを少し知ってもらう、ブラジルの素敵な一面を感じてもらう、そんなワークショップになりました。(星久美子)



3月8日に栗田谷中学校をお借りして会員総会を開催いたしました。

平成 25 年度「光の子どもたちの会」会計報告及び平成 26 年度予算 単位:円

科 目	25年度予算	25年度決算	26年度予算
収入の部			
前期繰越金	327.273	327.273	2.036.649
物品販売	50.000	55.356	50.000
会費収入	250.000	127.576	250.000
寄付収入	2.500.000	1.955.997	2.000.000
学資支援費	180.000	5.000	90.000
音楽企画支援費	300.000	0	180.000
サッカー企画支援費	10.000	0	10.000
その他事業費(イベント等)	100.000	0	100.000
かながわ民際協力基金	536.000	536.000	0
JICA 草の根技術協力事業	4.087.139	3.426.278	4.054.705
味の素助成金	1.944.000	1.944.000	0
受取利子	10	9	10
収入合計	10.284.422	8.377.489	8.671.364
支出の部			
事務局運営費(B)	60.000	87.473	60.000
事務局運営費(日)	10.000	8.065	10.000
保育園企画食材費	60.000	23.074	30.000
保育園企画研修費	30.000	11.964	30.000
保育園企画職員費	1.770.000	1.502.343	1.800.000
保育園企画学資支援	180.000	98.968	90.000
音楽企画運営費	300.000	168.565	180.000
サッカー企画運営	5.000	0	10.000
JICA 草の根技術協力事業	4.087.139	3.069.515	4.410.531
味の素助成金	2.392.114	1.370.873	573.127
支出合計	8.894.253	6.340.840	7.193.658
次期繰越金		2.036.649	

(注) ・平成 25 年 1 月 1 日より平成 25 年 12 月 31 日までの決算報告となります。

・平成 25、26 年度予算案は R\$1.00=50 円で計算しています。

Muito Obrigado ありがとうございます

平成 25 年 11 月 9 日～平成 26 年 6 月 13 日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。

この場をお借りして、心より御礼申し上げます。これからも一人でも多くの方に会員になって頂き、カノアの活動を共に支えていただけると嬉しいです。

(以下順不同)	大間弘道さま	谷村祥子さま	堀池真輔さま	吉川真弓さま
安見清さま	桑山寛子さま、	長谷川宏さま	堀池ミツ子さま	吉田可南子さま
岩本季和さま	下向井稔史さま	東奈津美さま	馬上一さま	大阪市榎本地域の皆様
大庭富美香さま	高橋美智さま	藤本くみさま	松丸綾乃さま	

Orientação da taxa de adesão 会費のご案内

「光の子どもたちの会」の活動は皆さまの会費とご寄付で成り立っております。カノアの保育園の運営費、保育士及び教員の給与、学用品購入費、給食費、イベントや遠足費用、教員の研修などに充てさせていただいております。村で唯一の保育園であり、子どもたちの保護者からは月謝はとっておらず、代わりに保育園での消耗品(石鹸や文具、食材など)を持ってこられる範囲でいただいております。会員になって、活動をサポートしていただけますませんか？

会費・ご寄付のお振込み方法は4つ ※年会費は 5,000 円です。

1. 自動引き落としによる振込み

自動引き落とし希望の口座のある金融機関で手続きができます。尚、引き落とし日、金額はご指定いただけます。尚、ゆうちょ銀行の場合は以下の〈2. 郵便振替〉と同じ口座番号ですが、他金融機関からの振込の場合には、〈3. ゆうちょ銀行振込〉の口座番号となりますので、ご確認ください。

2. 郵便振替

口座番号:00280-1-41787

加入者:光の子どもたち-カノアの活動を支える会



3. ゆうちょ銀行振込

名義:光の子どもたちの会

店名:〇二八 (読み方 ゼロニハチ)

店番号:928

普通預金

口座番号:5552598

4. インターネットよりクレジットカードで振り込み

光の子どもたちの会ホームページ(http://criancasdeluz.org/inicial/index_jp.html)より、お振込みいただけるようになりました。

※「学資支援」も募集しています。コメント欄に「学資支援」と書いてくだされば、保育園の現地スタッフが通う大学の毎月の授業料＋交通費＋教材費(計約 18,000 円)に充てさせていただきます。

お問い合わせ先:代表 鈴木真由美 日本事務局長 堀池真輔

〒221-0841 神奈川県横浜市神奈川区松本町 1-7-1 TEL/FAX 045-321-1824 horiike59@msi.biglobe.ne.jp

Começou o Facebook Facebook 始めました

「光のこどもたちの会」と検索してください。

国内イベント情報やカノアの写真などご覧いただけます。いいね！